

にし阿波世界農業遺産集落と吉野川

会員 中本 森八

私が住んでいるところは、周囲

が山に囲まれた、吉野川の支流の溪谷が重なり合う小さな盆地の中にある。吉野川は別称「四国三郎」と呼ばれ、関東の板東太郎・利根川、九州の筑紫次郎・筑後川とともに日本三大暴れ川との異名を持つ大河である。

現在では上流に大きな多目的ダムが建設され、洪水と氾濫のリスクは大幅に減少し、地域の安全性

は向上し農業が豊かになり生活環境が向上した。

一方、移転を余儀なくされた住民も少なくなかったが、昔ながらの秘境の暮らしは今も残っている。

その日本一の暴れ川と厳しい山並みの暮らしが今回の舞台であり、その山村風景には、山の神、水の神を祀り、自然を敬い、川と大地の恵みに抱かれ、寄り沿って強く生きる人々の今なお変

わらぬ暮らしがある。

近年、この山間地で米作りにも適さない傾斜地農業が、世界的にも珍しいとされ、「傾斜地農耕システム」つまり農耕の仕方、世界農業遺産に認定された。

かつてこの地は阿波葉と呼ばれる刻みたばこの「葉たばこ」の生産地であったが、現在では蕎麦や粟など由来種の雑穀、自生の山茶や多くの在来野菜が作られ、「干し柿」や「手延べ半田そうめん」などとともに、町の

特産品として食文化を支えている。私は

そんな自然豊かな写生地で、町・集落の一隅を裏山の木立の間から、吉野川の堤から描いており、あちこちの集落、氏神さんや山寺、古民家の近辺をモチーフに

している。

四国山脈と讃岐山脈に挟まれて流れる大河「吉野川」には、描き尽くせない四季折々の素晴らしい景色がある。

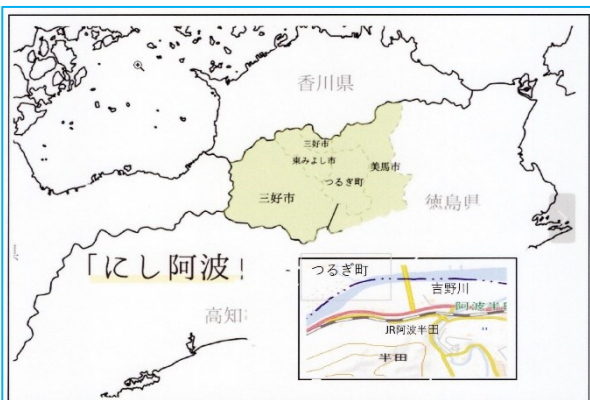
ここからはここに根づいている四国霊場とお遍路さんの風景や、世界農業遺産の町で培われてきた伝統芸能などにも絵筆が向けられればと思っている。

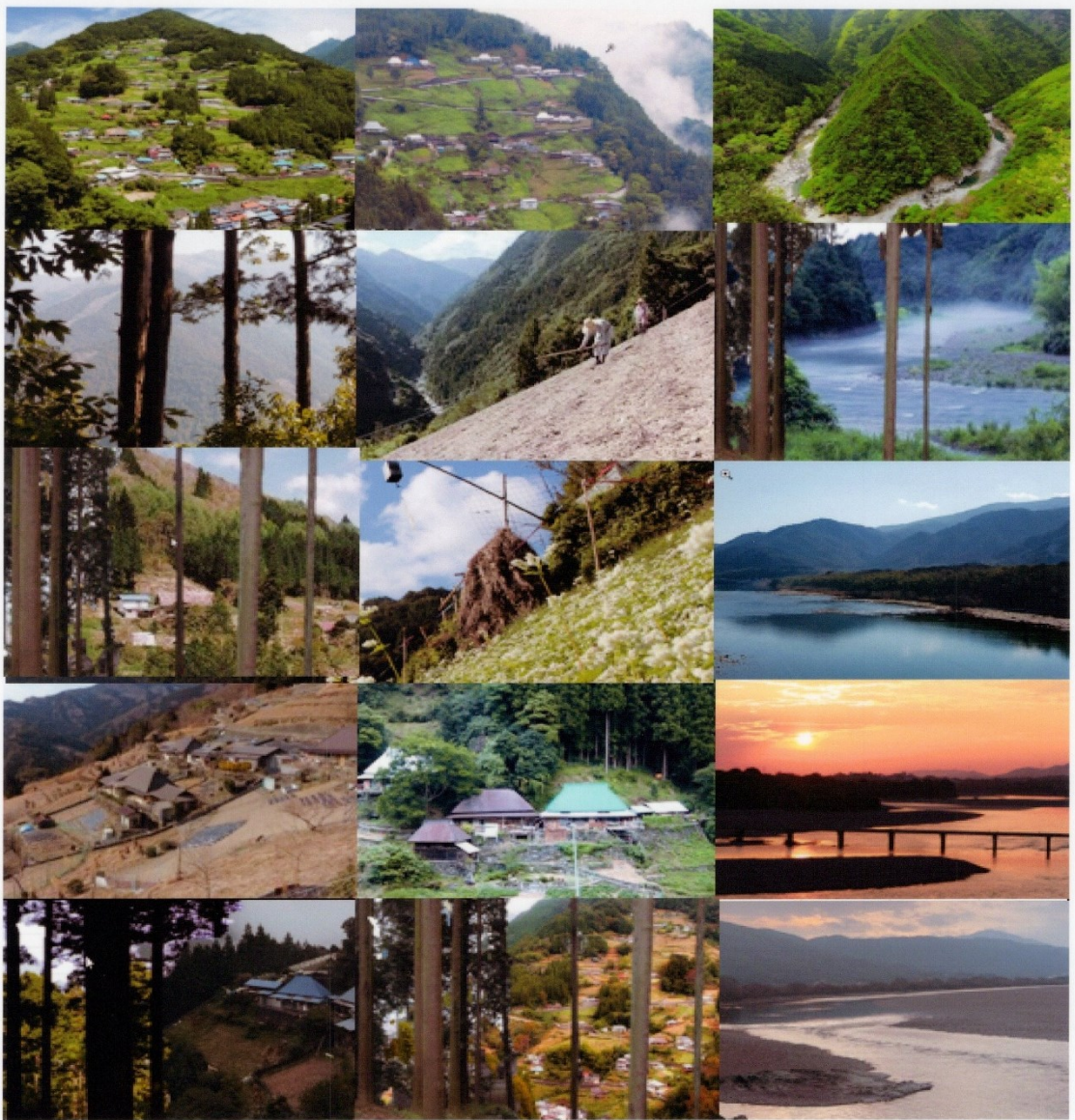


「吉野川・冬」



「吉野川」





◆吉野川

吉野川は四国最大の河川とあって、上流には美しい渓谷、奇怪な岩が見られる岩場があり、下流まで下れば広大な徳島平野と、流域ごとに様々な変化を見せる風景の見事さからもまた愛され、親しまれてきました。美しい渓谷で有名なのは、われわれがいつもラフティングでお世話になっている「大歩危・小歩危」があります。写真は私の集落近くの吉野川です。

◆にし阿波世界農業遺産

四国中央部の「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の山間部では、場所によっては斜度 40 度にもなる急傾斜地で、段々畑のような水平面を形成せずに傾斜地のまま農耕し、風雨などで起こる土の流出を草地で採取した敷き草（カヤ）を畑にすき込むことで最小限に抑え、そば等の雑穀や伝統野菜に山菜、果樹など少量多品目を組み合わせる複合経営により、山間地の環境に適応してきました。これが「にし阿波の傾斜地農耕システム」です。400 年以上にもわたり、この農耕システムが継承されてきたことにより、採草地の多様な動植物や焼畑農法の流れを汲む、日本の原風景ともいえる山村景観、保存食の加工や食文化、そして農耕にまつわる伝統行事なども人々の手で守られ継承されています。